



すずしろ 22 2019 7 月報

すずしろは大根 それは大地の豊かな恵の象徴 22世紀につなげる農のあり方を 共に考える会

援農状況

- ・6月援農時間 1575時間（昨年同月 1596時間）
- ・受入農家 20軒（昨年同月 15軒） ・参加会員 49人（昨年同月 45人）
- ・作業内容 草取り、収穫（玉ねぎ、にんにく、枝豆、トマト、きゅうり、ジャガイモなど）

事務局から

援農、お疲れ様です。

- ① 援農時間の記入は、30分単位でお願いいたします。
わかりやすい時間で記入されていると、集計作業が早まるばかりでなく、入力ミスも起こりにくくなります。
- ② 「入会申込書」、「援農にあたっての諸注意」、「作業実績表」の様式を改定しました。



理事会報告

6 月度臨時理事会（6月20日（木）18時より、台町市民センター、12人出席）

事務所変更（前理事長宅から現理事長宅へ）届け出の証憑の為開催

6 月度理事会（6月20日（木）18時15分より、台町市民センター、12人出席）

- ・三役の選任確認（理事長：清水、副理事長：小西、事務局長：飛田）
- ・書式の見直し
- ・他団体との関わり
- ・夏場援農の手配
- ・恒久的な事務所設置の検討
- ・イベント詳細計画
- ・5月度報告（会計・援農・農園）
- ・草木染の提案
- ・新たな農園設立の検討
- ・援農謝礼金見直しについての検討
- ・ドライブルーベリープロジェクト

7 月度理事会（7月18日（木）18時より、台町市民センター、12人出席）

- ・6月度報告（会計・援農・農園）
- ・援農集計方法の変更
- ・イベント報告
- ・金属探知機購入の検討
- ・農園管理に関する事例
- ・刈払い機持参の場合の援農基準
- ・援農謝礼金見直しに対する理事会意見集約への提案
- ・今後のイベント予定

安全 PR

熱中症に注意しましょう

※急に暑くなった日や活動の初日などは特に注意！！

人間の体は暑い環境での運動や作業を始めてから3~4日経たないと、体温調節が上手になってきません。このため、急に暑くなった日や久しぶりに暑い環境で活動した時には、体温調節が上手くいかず、熱中症で倒れる人が多くなっています。

※高齢者(65才以上)は特に注意が必要です。なぜなら

- 1、体内の水分が不足しがちです
高齢者は若年者よりも体内の水分量が少ない上、体の老廃物を排出する際にたくさんの尿を必要とします。（体内の水分量：小児75%・成人60%・高齢者50%）
- 2、暑さに対する感覚機能が低下します。
加齢により、暑さやのどの渇きに対する感覚が鈍くなります。
- 3、暑さに対する体の調節機能が低下します。
高齢者は体に熱がたまりやすく、暑い時には若年者よりも循環器系への負担が大きくなります。

※のどの渇きを感じなくてもこまめに水分補給をしましょう。

体に必要な水分の補給を我慢することは、特に危険です。

※援農時は水筒を身近に置いて作業しましょう！！（清水）



イベント報告

親子じゃが芋掘り体験

6月29日新富所農園にて、小雨の中、6家族23名（内子ども12名）で賑やかにじゃが芋掘りをしました。2歳から5歳までの子供が多く、土の中からコロコロ出てきたお芋に大喜び！軍手をした小さな手には大きなお芋！カブト虫の幼虫を見つけて、家で飼う！と紙コップに幼虫と土を入れて持ち帰った子もいました。芋畑に隣接する畑のズッキーニやすいか、茄子を見て「初めて見た！」と感激しているご家族もありました。

すずしろ22に興味を持ってくださったので、次に繋がる会になったと思います。（佐藤：右も）



地場野菜を使った料理教室

6月23日、大横保健福祉センターにて17名（直前に数名のキャンセルが有りました）の参加で行いました。

メニューは手作りのナン、茄子やピーマンなどの夏野菜を使ったドライカレー、新玉葱とガラスープだけで作るオニオンスープ、新じゃがのナッツ和え、砂糖を使わない甘酒ムース梅ジャム添え。旬の地場野菜を使った料理を楽しく美味しい！

と喜んで頂きました。レシピは次回会報でご紹介します。



イベントのお知らせ

- ① 中村農園のブルーベリー園で、7/25~8月下旬、ブルーベリーの摘み取りができます。時間は8:00~16:00。火曜日定休。1800円/kgで買い取り。住所は八王子市上恩方町1809奥。駐車場有。連絡先は090-4363-4485(中村貞夫さん携帯)
 - ② 7月27日(土)13:00~15:00 八王子アマダステーション(八王子市東町3-4)にて『美味しいごはん』上映会を行います。料金：大人1300円、小中学生500円。申込はてんぐシネマ倶楽部(tengcinema@gmail.com)へ、お名前・電話番号を明記の上、メールしてください。
 - ③ 8月24日(土)9:45~12:30(雨天時は8/25に延期) 小田野中央公園にて『わたしのまちの水辺調査』を行います。参加費：大人200円、こども100円
持ち物：帽子、タオル、水筒、着替え、あれば水中用の網、タモ等
生活クラブ運動グループ八王子地域協議会主催
申込・問合せは、川村(090-5316-4279)または飛田(emiko.agri@gmail.com、070-4449-2641)まで
- 注：②、③は他団体のイベント

援農体験記

(今回は農家会員の平さんより「就農」についての寄稿をいただきました)

「仕事としての農業、農のある生活」

平町 平農園 平智之

八王子市平町で農業を営んでおります。すずしろ22農家会員の平智之です。現在39歳で就農から9年目となります。八王子市平町で施設、露地で、多品目の野菜を生産し、主に市内スーパー、道の駅へ出荷しています。基本労働力は両親と自身の3人です。妻は会社員で、自分の農業収入と妻の会社員収入で生活をする共働き家庭です。子どもは2人で小学3年生の長男、年長の長女がいます。

父は元々、原木栽培のしいたけを生産する農業を営んでいましたが、家庭内において、子どもに後継の話は特にしていなかったと記憶しています。私も仕事としての農業を大きく意識することなく、普通高校を卒業し、大学の商学部へと進み、一般企業に就職しました。

大学ではジャズ研究同好会での活動に熱を入れていたこともあり、エンターテインメントに関わる仕事をしたいと思っていました。内定を受けた会社は、運よく、映像ソフトを扱



うエンターテインメント系の商社で、洋画、邦画、アニメーションの DVD の流通に携わりました。2003 年のことでした。

当時、映画やアニメの DVD ソフトを購入、レンタルして自宅で鑑賞するスタイルが浸透し、業界は右肩上がりの成長を続けていました。終電帰りも頻繁で、土日でもオフィスに行くこともよくあり、仕事は大変でしたが、独身だったこともあり、仲間と一緒に仕事をする忙しさにやりがいを感じていました。しかし年数が経つにつれ、映像配信やダウンロード販売市場が活発になり、2006、7 年ごろにはソフト業界は急速に縮小しはじめ、会社も方針の転換をしていくことになりました。このことは、自分のこの先のことも考えはじめるきっかけになりました。

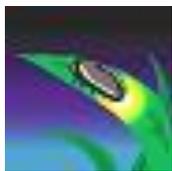
当時は「ワークライフバランス」を重視した働き方が注目されはじめた頃で、自分もそれまでの、生活を犠牲にした働き方を見直して、家族をつくり、この先の人生を過ごしていきたいと思うようになっていました。元々農家に生まれ、少年時代はボーイスカウト活動に参加していたため、自然の中で活動することが好きでした。また、大学のジャズ研時代の体験から、「ものづくり・作品づくり」も好きでした。この2つの点から、この先の人生を過ごす仕事への転職を考えるなかで、「自然の中で、自身の裁量で仕事ができ、自分の名前で商品を作り、販売できる」農業という職業に興味を持ちはじめました。



当初、両親は農業の厳しさから、私の就農を心配していましたが、情報収集をしながら 2 年ほどして後、一念発起して 2009 年に会社を辞め、東京都の「農林総合研究センター」に技術研修生として入所しました。同年、結婚し、2010 年に父のもとで就農しました。

しかし、いざ始めてみると作物や天候の都合に振り回される毎日、会社員時代から激減した収入、思うように育たない作物など、苦労の連続でした。幾度となく後悔を味わいながらも、前職で培った、販売実績・作業内容を分析する手法を取り入れ、無駄な作業の削減、栽培品目の取捨選択の実施を行い、徐々に労働生産性を改善していくことができました。その後、2016 年に事業を継承し、2018 年には、多摩信用金庫主催の「多摩ブルー・グリーン賞」ビジネスモデル部門において、「モバイル端末とクラウドサービスを活用した、小規模農業の効率化モデル」として応募、選出され、農業者としては異例の「奨励賞」を受賞することができました。現在も課題は絶えませんが、試行錯誤を繰り返し、日々の農業に勤しんでいます。

2010 年に長男、2013 年に長女を授かり、学校や保育園が休みの時は一緒に畑へ行って、作業をしたり、収穫をしたり、「仕事」であっても子どもたちと一緒に自然を共有できる楽しさは農業でなければ体験できないことなのかなと感じます。収穫した野菜を楽しみに食卓につく喜びには、何とも言えない充実感を味わうことができます。先日は、すすしろ 22 のホテル観賞会にも家族で参加させていただきました。都心で働いていた頃には考えもしなかった自然体験を自分の家族と過ごせるのも農のある暮らしに身を置いているが故なのかなと思います。



もちろん日々の農作業、農産物販売は、台風や大雪などの自然災害、病害虫の大発生、天候の気まぐれによる大雨、少雨、日照り、猛暑、低温など、様々な環境に翻弄されます。しかし、それは人間のなせるものではなく、言わば天から与えられたものであって、予防・防災はできても、自然の猛威は受け入れるしかないものです。どんな時も種を蒔き続けることが大切なのだといつも思い知らされます。時に、想定外の状況に立たされることもありますが、家族やすすしろ 22 会員の皆さまの助けを借りながら、自然環境とうまくつきあい、農業を行っていければと思っています。

